

## キリスト教の成立

☆ユダヤ：セレウコス朝からハスモン朝が独立⇨ローマのポンペイウスに占領される。

⇨親ローマ派のヘロデ王の支配(前37-前4)⇨アウグストゥスがローマの属州に。

- (・サドカイ人<sup>びと</sup>：親ローマ派のユダヤ教大祭司。ローマの保護下で特権を守る。
- ・<sup>1</sup> \_\_\_\_\_人<sup>びと</sup>：反ローマ派の律法学者。律法の順守による救世主を待望。

後30頃 ガリラヤ地方の宗教家イエスが、律法を否定、“神の国”の到来を説く。

⇨律法学者の告発により、総督<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ は反逆罪でイエスを処刑。

☆キリスト教：“イエスの復活”を信じ、イエスを救世主、神の子と説く宗教。

- (・<sup>3</sup> \_\_\_\_\_：“十二使徒”の代表。エルサレムに最初の教団を組織。
- ・<sup>4</sup> \_\_\_\_\_：“異邦人の使徒”。ギリシア出身。信仰義認説、十字架上の贖罪説<sup>しよくざい</sup>。

64 <sup>5</sup> \_\_\_\_\_ 帝の迫害：ローマ大火の責任を転嫁。ペテロ・パウロが殉教。

⇨ドミティアヌス帝の迫害⇨『ヨハネ黙示録』<sup>もくし ろく</sup>。地下墓地<sup>ぎやうでん</sup> (<sup>6</sup> \_\_\_\_\_) で礼拝。

2c 『<sup>7</sup> \_\_\_\_\_』成立。4福音書・使徒行伝<sup>ぎやうでん</sup>・書簡・黙示録。<sup>8</sup> \_\_\_\_\_ 語。

## ローマ帝国の衰退

・<sup>9</sup> \_\_\_\_\_ 帝<sup>ドミナトゥス</sup>：284- 専制君主政。皇帝崇拜を強制。キリスト教徒大迫害。

・<sup>10</sup> \_\_\_\_\_ 帝：313 <sup>11</sup> \_\_\_\_\_ 勅令でキリスト教を<sup>12</sup> \_\_\_\_\_、迫害停止。

325 <sup>13</sup> \_\_\_\_\_ 公会議：<sup>14</sup> \_\_\_\_\_ 派を異端に。330 <sup>15</sup> \_\_\_\_\_ 遷都。

・ユリアヌス帝<sup>はいきやうしや</sup>：“背教者”。ミトラ教に改宗、キリスト教弾圧。ペルシア遠征で戦死。

375- 民族大移動：ゲルマン人の西ゴート族が移動を開始。(⇨フン人の西進)

・<sup>16</sup> \_\_\_\_\_ 帝：380 キリスト教<sup>17</sup> \_\_\_\_\_ 化、392 異教を禁止。395 帝国を東西分割。

381 コンスタンティノープル公会議：<sup>18</sup> \_\_\_\_\_ 派の三位一体説を正統に。

—395- 西ローマ帝国：ゲルマン人の侵入続く。

410 西ゴート王アラリックがローマ市を略奪。

✚レオ1世：教皇(440-)。ローマの首位権を主張。

451 カタラウヌムの戦い：フン人の侵攻を撃退。

476 ゲルマン人傭兵隊長オドアケルが皇帝を追放。

—395- 東ローマ帝国—

431 <sup>19</sup> \_\_\_\_\_ 公会議

：<sup>20</sup> \_\_\_\_\_ 派追放。

451 <sup>21</sup> \_\_\_\_\_ 公会議

：単性論派(コプト派)を追放。

(解答) 1パリサイ 2ポンティウス=ピラトゥス 3ペテロ

4パウロ 5ネロ 6カタコンベ 7新約聖書 8ギリシア

9ディオクレティアヌス 10コンスタンティヌス 11ミラノ

12公認 13ニケーア 14アリウス 15コンスタンティノープル

16テオドシウス 17国教 18アタナシウス 19エフェソス

20ネストリウス 21カルケドン

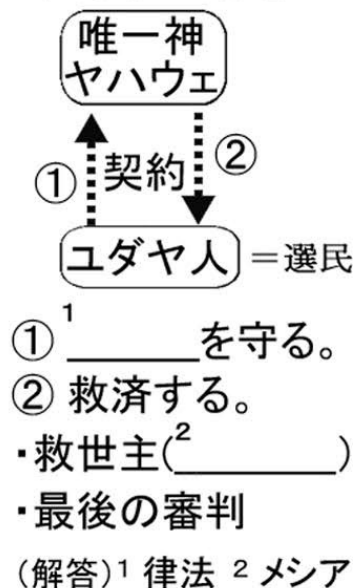


▲ コンスタンティヌスの奇跡

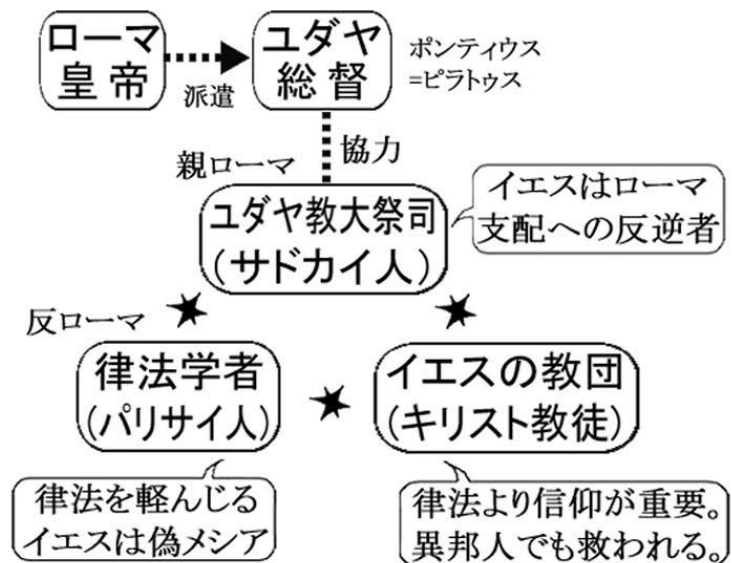
戦闘の際、キリストを暗示するギリシア文字のXPが天空に出現する。

# キリスト教の成立

## ユダヤ教の思想



## ローマ支配下のユダヤ



ユダヤ教の律法(モーセの十戒)…『旧約聖書・出エジプト記』

私は主、あなたの神、あなたをエジプトの家、奴隷の家から導いた神である。

あなたは、私のほかに神があつてはならない。あなたはいかなる像も造つてはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形を作つてはならない。あなたはそれらに向かってひれ伏したり、仕えたりしてはならない。…あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。…安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いてあなたの仕事をし、七日目はあなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。…あなたの父母を敬え。…殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。隣人に関して偽証してはならない。隣人の家を欲してはならない。…

『新約聖書』 the New Testament……2世紀に成立。1           語(コイナー)で記録。

(1) 4つの2            Gospel

- ・イエスの生涯。マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネの4人が記録。
- ・生誕、山上の垂訓、最後の晚餐、裁判、処刑、復活まで。

(2) 3            Acts of the Apostles

- ・十二使徒の代表4           、
- 「異邦人の使徒」5           の伝道記録。

(3) 5           の書簡 Pauline Epistles

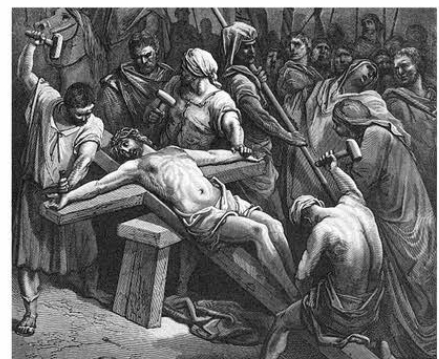
- ・各地の教会へ宛てた手紙。キリスト教の教義を理論化。

(4) ヨハネ黙示録 <sup>もくしろく</sup> Revelation of John

- ・世界の終末、最後の審判、「神の国」の到来を描く。



▲最後の晚餐



▲イエスの磔刑(たっけい)

(解答) 1. ギリシア 2. 福音書 3. 使徒行伝 <sup>し と ぎょうでん</sup> 4. ペテロ 5. パウロ



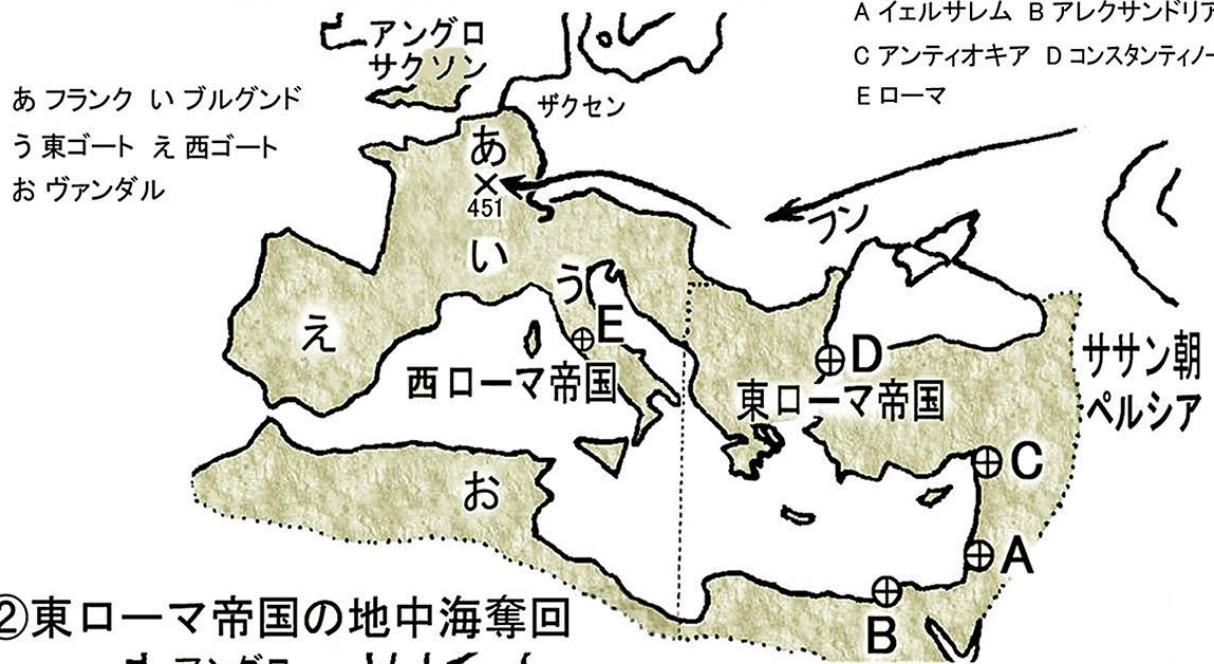
## 民族大移動①ゲルマン人の侵入

⊕ キリスト教の五本山

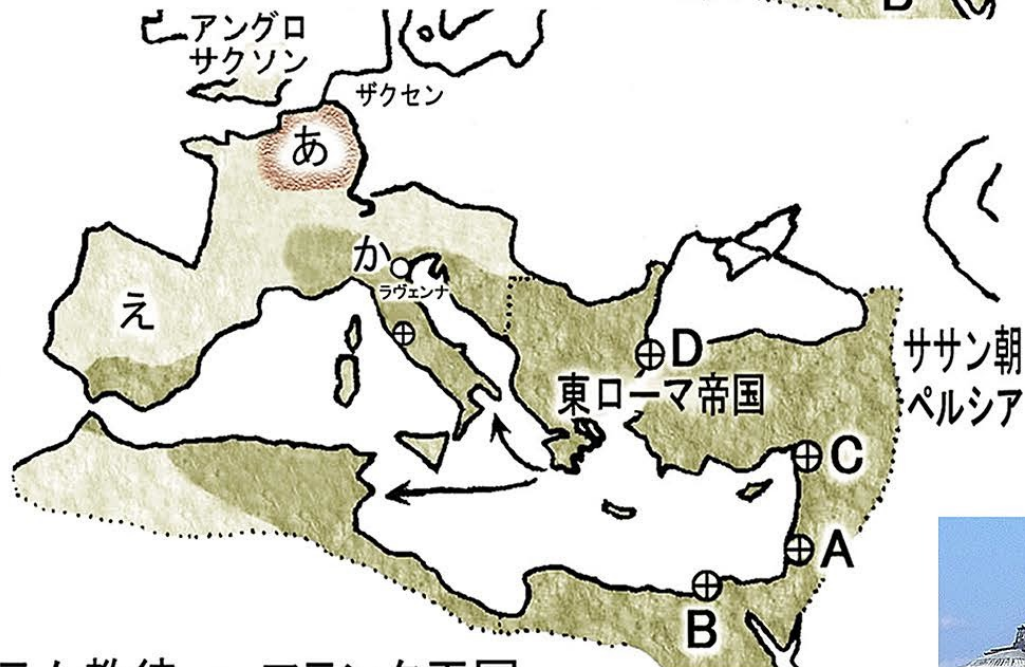
A イエルサレム B アレクサンドリア

C アンティオキア D コンスタンティノープル

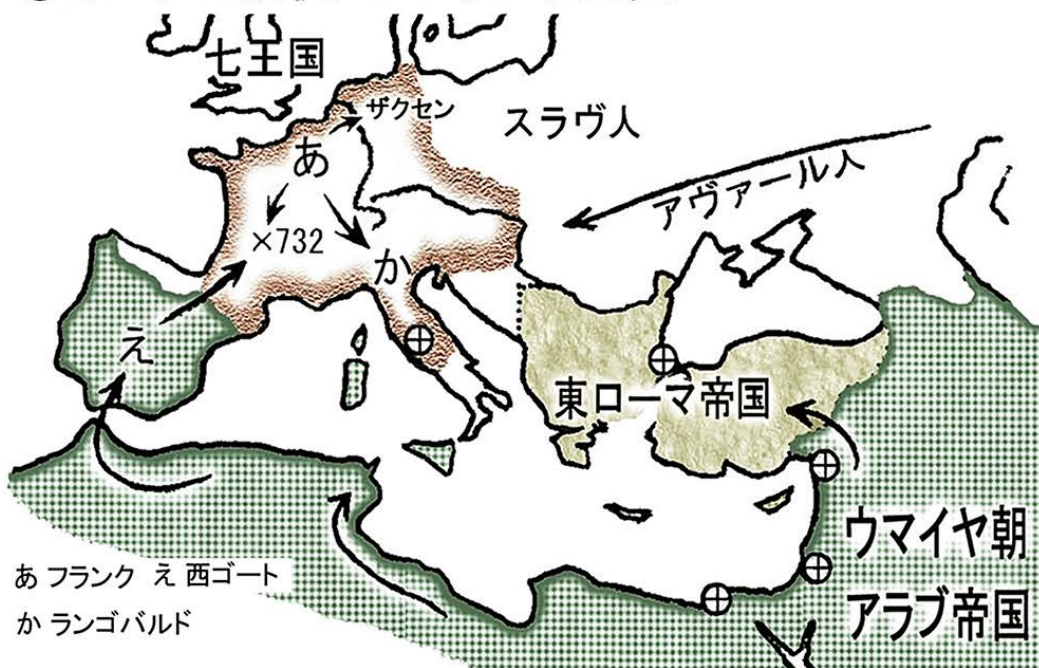
E ローマ



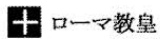
## ②東ローマ帝国の地中海奪回



## ③イスラム教徒 vs. フランク王国



▲ ハギア=ソフィア聖堂



ローマ教皇

## 民族大移動の時代

395- 西ローマ帝国：ゲルマン人傭兵が実権。

451 カタラウヌムの戦い：**+** レオ1世：<sup>1</sup> \_\_\_\_\_ 権を主張。：フン人のアッティラが侵攻（<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ 教会）455 ヴァンダル人が侵攻。・<sup>3</sup> \_\_\_\_\_：ゲルマン人傭兵隊長。

☆フランク人

476 西ローマ皇帝を追放。

：ライン東岸からガリアへ。

493-<sup>19</sup> \_\_\_\_\_ 王国・テオドリック：オドアケルを倒す。

⇒アリウス派を強制、ローマ人と対立。

481-<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 朝・<sup>5</sup> \_\_\_\_\_

：フランク人を統一。

496 アタナシウス派に改宗。

⇒教皇とローマ人の支持。

534 ブルグンドを征服し、  
ガリア統一。

7c-イスラーム教徒の侵入。

711 西ゴート王国滅亡。

555- 東ローマ領

☆ラヴェンナに総督府。

サン=ヴィターレ聖堂。

568- ランゴバルド王国

☆北イタリアに侵入、教皇を圧迫。

・**+** グレゴリウス1世：大教皇。

⇒アングロ=サクソン人に布教。

395- 東ローマ帝国

(首都:コンスタンティノープル)

☆<sup>17</sup> \_\_\_\_\_ 教会：皇帝が政教両権を握り、  
首長(総主教)を任免。・<sup>18</sup> \_\_\_\_\_

：全盛期の皇帝(527-)

534 ヴァンダルを征服。

555 <sup>19</sup> \_\_\_\_\_ を征服、☆<sup>20</sup> \_\_\_\_\_ 聖堂☆『<sup>21</sup> \_\_\_\_\_』

：法学者トリボニアヌスが編纂。

☆中国から絹織物業が伝来。

7c-イスラーム教徒の侵入。

・ヘラクレイオス1世

⇒シリア・エジプトを失う。

⇒<sup>22</sup> \_\_\_\_\_ 制・屯田兵制。

☆ギリシア語の公用語化。

⇒ビザンツ帝国に変質。

・<sup>23</sup> \_\_\_\_\_ (717-)

：アラブ軍が首都を包囲。

726 <sup>24</sup> \_\_\_\_\_ 令。

：聖像画(イコン)を禁止。

イスラーム教徒に対抗。

9c <sup>25</sup> \_\_\_\_\_ 兄弟が

スラヴ人に布教。

(⇒キリル文字の成立)

988 <sup>26</sup> \_\_\_\_\_ 公国

(ロシア)が正教に改宗。

732 <sup>6</sup> \_\_\_\_\_ の戦い：イスラーム軍が侵攻⇒フランク王国の宮宰<sup>7</sup> \_\_\_\_\_ が撃退。751- <sup>8</sup> \_\_\_\_\_ 朝フランク王国・<sup>9</sup> \_\_\_\_\_：マルテルの子。教皇の支持で王に。⇒ランゴバルド王国から<sup>10</sup> \_\_\_\_\_ 地方を奪う。→★

⇒教皇に寄進(ローマ教皇領の起源)

・<sup>11</sup> \_\_\_\_\_ 大帝 <sup>協力</sup> **+** <sup>12</sup> \_\_\_\_\_ <sup>首位権</sup> →★ランゴバルド王国、独の<sup>13</sup> \_\_\_\_\_ 人を征服、西欧統一。遊牧民<sup>14</sup> \_\_\_\_\_ 人撃退。イベリア遠征(『ローランの歌』)

800 カールの戴冠：教皇が“西ローマ帝国復興”を宣言。

☆カロリングルネサンス：英出身の神学者<sup>15</sup> \_\_\_\_\_ が指導。

学校の再建など、ラテン文化を復興

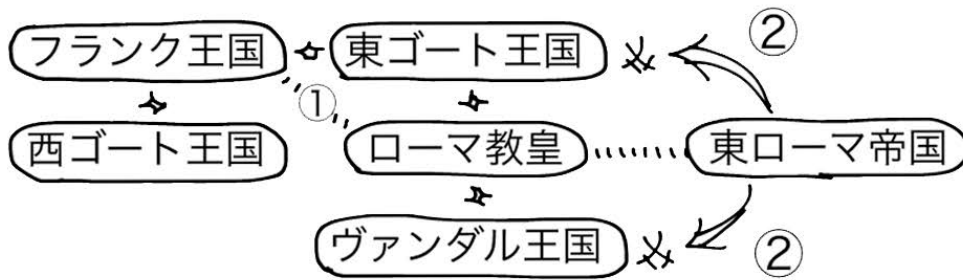
☆地方豪族を州知事(<sup>16</sup> \_\_\_\_\_)に任命、巡察使が監督。

⇒カールの死後、豪族が封建領主化、帝国は解体へ。

(解答) 1首位 2ローマ=カトリック 3オドアケル 4メロヴィング 5クロヴィス 6トゥール・ポワティエ  
 7カール=マルテル 8カロリング 9ピピン(3世) 10ラヴェンナ 11カール 12レオ3世 13ザクセン  
 14アヴァール 15アルクイン 16伯 17ギリシア正 18ユスティニアヌス 19東ゴート 20ハギア=ソフィア  
 21ローマ法大全 22テマ(軍管区) 23レオン3世 24聖像(崇拜)禁止 25キュロス 26キエフ



## 民族大移動とキリスト教①



▲ クローヴィスの改宗(496)

○ アリウス派

① \_\_\_\_\_の改宗(496)

(解答)

○ アタナシウス派

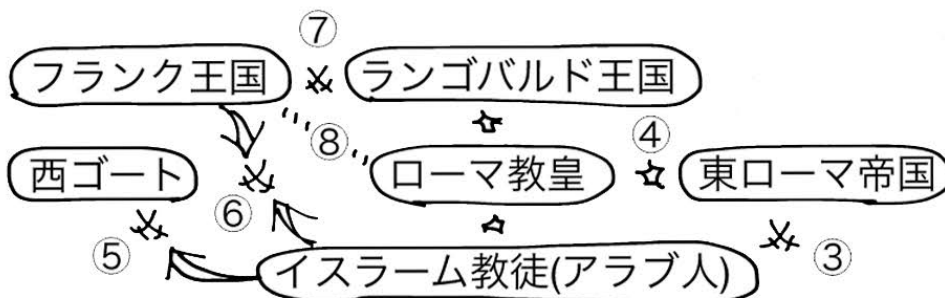
(多神教→アタナシウス派)

① クローヴィス

② \_\_\_\_\_帝の遠征(6c)

② ユスティニアヌス

## 民族大移動とキリスト教②



③ \_\_\_\_\_征服(7c)

⑥ \_\_\_\_\_の戦い(732)

④ アタナシウス派の分裂

→宮宰\_\_\_\_\_が勝利

○ \_\_\_\_\_教会

→ピピンのクーデタ(\_\_\_\_\_朝成立)

○ \_\_\_\_\_教会

⑦ ピピンのイタリア遠征

⑤ \_\_\_\_\_半島征服(711)

⑧ \_\_\_\_\_地方を教皇に寄進

→\_\_\_\_\_の戴冠 (800)

…教皇\_\_\_\_\_による。

(解答) ③ シリア・エジプト ④ ギリシア正/ローマ=カトリック

⑤ イベリア ⑥ トゥール・ポワティエ間/カール=マルテル

/カロリング ⑧ ラヴェンナ/カール/レオ3世



▲ カールの戴冠(800)

## フランク王国の解体

☆フランク王国：カール大帝の死後、解体へ向かう。

843 <sup>1</sup> \_\_\_\_\_ 条約：大帝の孫3人が帝国を3分割。  
長男ロタールが帝位を相続。

870 <sup>2</sup> \_\_\_\_\_ 条約：ロタール領を弟2人が再分割。  
(⇨ <sup>3</sup> \_\_\_\_\_ の起源)

9-10c ノルマン人の侵入、カロリング家の断絶。

⇨戦乱の中で、地方豪族が諸侯（公・伯）に成長。



フランス (<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 朝)

- ・ **パリ伯<sup>5</sup>**  
：ノルマン人を撃退。
- 987 仏王に選出される。  
⇨国内には大諸侯が割拠。  
⇨王権は弱体。

ドイツ (<sup>6</sup> \_\_\_\_\_ 朝)

- ・ **公ハインリヒ<sup>6</sup>**  
919 ドイツ王に選出される。
- ・ **\_\_\_\_\_ <sup>7</sup>**  
955 レヒフェルトの戦い  
⇨ **\_\_\_\_\_ <sup>8</sup>** 人を撃退。
- 962 オットーの戴冠 (<sup>9</sup> \_\_\_\_\_ 帝国の起源)

イタリア

- ・ 諸侯の抗争が続き、アラブ人も侵入。
- ・ **ヨハネス12世**  
：独王に出兵要請。

## ノルマン諸国

☆<sup>10</sup> \_\_\_\_\_ 人：ヴァイキング。北方ゲルマン人。北海・バルト海で交易、略奪。  
北歐にノルウェー・スウェーデン・<sup>11</sup> \_\_\_\_\_ を建国(8-10c)

### ①北フランス

- 911 **\_\_\_\_\_ <sup>12</sup>** 公国を建国。  
⇨西フランク（フランス）王に臣従。
- 1059 ロベール=ギスカルがシチリア征服。
- 1066 **ウィリアム**がイングランド征服。

### ③イングランド

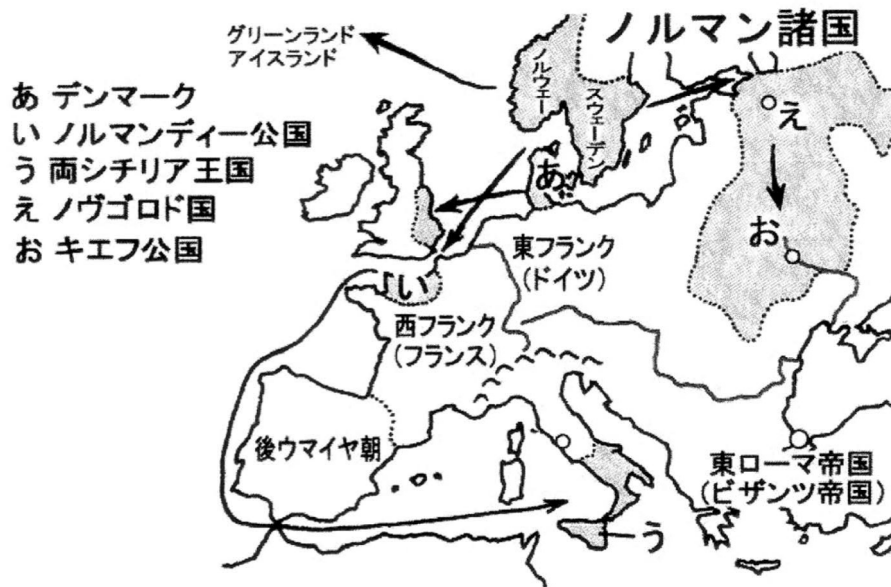
- 5c **\_\_\_\_\_ <sup>12</sup>** 公国を建国。  
⇨西フランク（フランス）王に臣従。
- 1059 ロベール=ギスカルがシチリア征服。
- 1066 **ウィリアム**がイングランド征服。
- ③イングランド  
5c **\_\_\_\_\_ <sup>12</sup>** 公国を建国。  
⇨西フランク（フランス）王に臣従。
- 829 **\_\_\_\_\_ <sup>16</sup>** が七王国を統一。  
⇨ **\_\_\_\_\_ <sup>17</sup>** 大王がデーン人撃退。
- 1016 デーン人の王 **\_\_\_\_\_ <sup>18</sup>** が侵攻。  
⇨英・デンマーク・ノルウェーを含む“北海帝国”  
⇨エドワード **\_\_\_\_\_ <sup>19</sup>** が侵攻
- 1066 **\_\_\_\_\_ <sup>19</sup>** が侵攻  
⇨ **\_\_\_\_\_ <sup>20</sup>** の戦い(ノルマン征服)  
⇨ウィリアムがハロルドを破り、英王に。

### ②ロシア

- 862 **\_\_\_\_\_ <sup>13</sup>** がノヴゴロドに建国。  
⇨先住スラヴ人を支配（ロシアの起源）
- 882 **\_\_\_\_\_ <sup>14</sup>** 公国を建国。  
⇨ビザンツ帝国に臣従、交易。
- 988 大公 **\_\_\_\_\_ <sup>15</sup>** が正教に改宗。  
⇨ビザンツ皇帝の妹と結婚。

### ④南イタリア（シチリア）

- 9c-イスラーム教徒(アッバース朝)の支配。
- 1059 **\_\_\_\_\_ <sup>15</sup>** が正教に改宗。  
⇨ビザンツ皇帝の妹と結婚。
- 1130 **\_\_\_\_\_ <sup>21</sup>** 王国の起源)  
⇨アラブ人官僚をそのまま採用。  
(ビザンツ・イスラーム・カトリックの共存)



- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1 ヴェルダン   | 10 ノルマン     |
| 2 メルセン    | 11 デンマーク    |
| 3 仏・独・伊   | 12 ノルマンディー  |
| 4 カペー     | 13 リューリク    |
| 5 ユーグ=カペー | 14 キエフ      |
| 6 ザクセン    | 15 ウラディミル1世 |
| 7 オットー1世  | 16 エグバート    |
| 8 マジャール   | 17 アルフレッド   |
| 9 神聖ローマ   | 18 クヌート     |
|           | 19 ウィリアム    |
|           | 20 ヘースティングズ |
|           | 21 両シチリア    |

## 封建社会の成立

9～10世紀 フランク王国の解体、ノルマン人の侵攻の中で地方分権化がすすむ。

- ①封建制度：貴族（諸侯・騎士）間の主従関係。<sup>1</sup> \_\_\_\_\_ の授受による双務的關係。  
（ローマ末期の<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ 制とゲルマン人の<sup>3</sup> \_\_\_\_\_ 制が結合）

- ②荘園：領主（貴族・教会・修道院）が所有する広大な私有地。

領主は、課税権・領主裁判権を持ち、王権の介入を拒否（<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 権）

☆古典荘園：移動の自由がない農奴を強制労働（⇨ローマ時代の小作人=<sup>5</sup> \_\_\_\_\_）

- ・領主の<sup>6</sup> \_\_\_\_\_ 地：農奴の<sup>7</sup> \_\_\_\_\_ （強制労働）によって経営（労働地代）。
- ・農民の<sup>8</sup> \_\_\_\_\_ 地：領主が収穫の一部を<sup>9</sup> \_\_\_\_\_ させる（生産物地代）。

⇨他に、結婚税・死亡税・水車使用料、教会への十分の一税を徴収。

11～13世紀 十字軍の時代：商業の復活、貨幣の普及⇨生産物地代から貨幣地代へ。

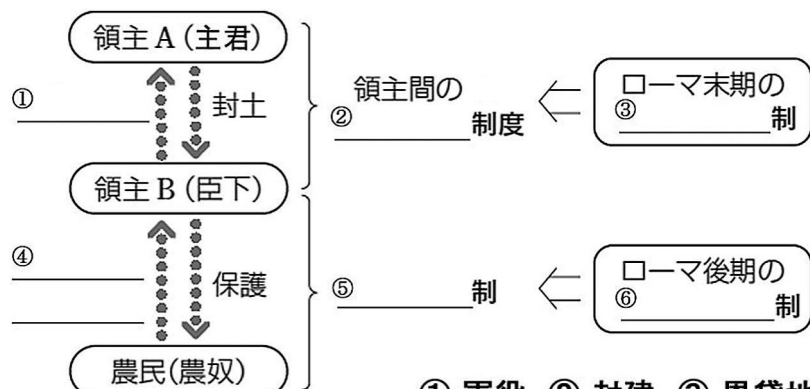
- ①<sup>10</sup> \_\_\_\_\_ 製農具・牛耕・重量有輪犁が普及⇨大開墾時代：森林伐採（⇨シトー派修道会）

- ②<sup>11</sup> \_\_\_\_\_ 制：秋耕地（小麦）・春耕地（大麦）・休閑地に3分。収穫が倍増。

- ・各耕地に農民が保有する地条が散在。垣根で仕切らない開放耕地。
- ・農作業の共同化。教会を中心とする村落共同体。日曜ミサ、マリア信仰の普及。

## 封建社会

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 ほうど<br>封土   | 7 ふ え き<br>賦役  |
| 2 おんたい<br>恩貸地 | 8 保有           |
| 3 じゅうし<br>従士  | 9 こうのう<br>貢納   |
| 4 不輸不入        | 10 鉄           |
| 5 コロヌス        | 11 さ ん ぼ<br>三圃 |
| 6 直営          |                |



- ① 軍役 ② 封建 ③ 恩貸地  
④ 賦役・貢納 ⑤ 農奴 ⑥ コロヌス



## 教皇権の確立

☆<sup>1</sup> \_\_\_\_\_ : カトリック教会の首長。 “使徒<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ の後継者” “神の代理人”

☆聖職階層制：教皇・枢機卿・修道院長・大司教・<sup>3</sup> \_\_\_\_\_ ・<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ の序列。

⇒ 聖職者は、国王・諸侯から土地を寄進され、荘園領主となる（教会の世俗化）。

☆<sup>5</sup> \_\_\_\_\_ 政策 神聖ローマ皇帝が聖職者を任命して行政を委ね、諸侯に対抗。

⇒ 聖職者の腐敗（聖職売買、聖職者の結婚など）が深刻化、教皇権との対立を招く。

☆教会改革運動 東仏の<sup>6</sup> \_\_\_\_\_ 修道院を中心に、聖職者の規律を強化。

☆<sup>7</sup> \_\_\_\_\_ 闘争：聖職者の任命権をめぐる皇帝と教皇との争い。

✚<sup>8</sup> \_\_\_\_\_ : 改革派のローマ教皇。

1077 <sup>9</sup> \_\_\_\_\_ の屈辱：皇帝<sup>10</sup> \_\_\_\_\_ を破門。

⇒ ドイツ諸侯らが皇帝に離反⇒皇帝は教皇に屈服、謝罪。  グレゴリウス7世

⇒ 次のハインリヒ5世も教皇と争い、破門される。

✚カリクストゥス2世：皇帝ハインリヒ5世と妥協。

1122 <sup>11</sup> \_\_\_\_\_ 協約：叙任権闘争は教皇優位で終結。

⇒ 皇帝は叙任権を放棄し、司教への封土授与権のみ確保。

⇒ それまで政教両権を握っていた皇帝は、教権を教皇に譲り渡す。

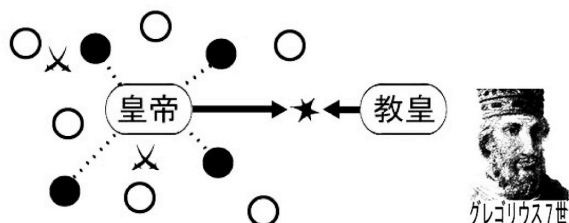
✚<sup>12</sup> \_\_\_\_\_ : 教皇権の絶頂。“教皇は太陽、皇帝は月”

⇒ 英王ジョン・仏王フィリップ2世・皇帝オットー4世を破門。



▲ カノッサの屈辱(1077)

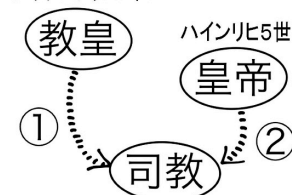
### 帝国教会政策



皇帝は、●聖職者(司教)を任命(叙任)し、  
○諸侯(公・伯)に対抗して統一を進める。

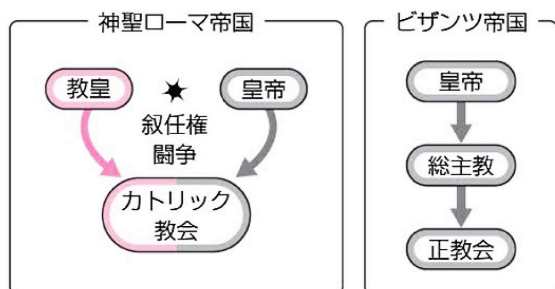
### ヴォルムス協約(1122)

カリクストゥス2世



① 叙任する。

② 封土を与え、臣下にできる。



東ローマ(ビザンツ)皇帝は、  
「キリストの代理人」と称して  
総主教以下の聖職者を任免し、  
政教両権をあわせ持っていた。  
カトリック側はこの両権体制を、  
「皇帝教皇主義」と呼んだ。

### 教皇権の衰退

1 教皇 2 ペテロ 3 司教 4 司祭 5 帝国教会 6 クリュニー 7 叙任権 8 グレゴリウス7世  
9 カノッサ 10 ハインリヒ4世 11 ヴォルムス 12 インノケンティウス3世

## 十字軍の時代

☆聖地巡礼：イエルサレム、ローマ、スペインのサンチャゴ=デ=コンポステラが三大巡礼地に。

1054 東西教会が<sup>1</sup>\_\_\_\_\_。1071 マンジケルトの戦い：<sup>2</sup>\_\_\_\_\_朝が侵攻。

✚<sup>3</sup>\_\_\_\_\_：教皇。ビザンツ皇帝アレクシオス1世からの救援要請。

1095 <sup>4</sup>\_\_\_\_\_公会議：聖地<sup>5</sup>\_\_\_\_\_奪回を名目に、十字軍の派遣を提唱。

⇒カトリックによる東西教会の統一が真の目的。参加者には贖罪しよくざい(免罪)を与える。

1096- 第1回十字軍：仏諸侯が中心⇒聖地に<sup>5</sup>\_\_\_\_\_王国を建国(1099)。

☆宗教騎士団：聖地防衛と巡礼者保護。<sup>6</sup>\_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_の3つ。

1189- 第3回十字軍(帝王十字軍)

・皇帝フリードリヒ1世：事故死。

・仏王フィリップ2世：途中で帰国。

・英王<sup>8</sup>\_\_\_\_\_：エジプト遠征。

1169- クルド人武将<sup>7</sup>\_\_\_\_\_、

エジプト王に(アイユーブ朝)

1187 聖地を十字軍から奪回。

⇒十字軍、海港アッコに撤退。

✚<sup>9</sup>\_\_\_\_\_：教皇権の絶頂。“教皇は太陽、皇帝は月”

1202- 第4回十字軍：仏諸侯が中心。<sup>10</sup>\_\_\_\_\_共和国が海上輸送を担当。

⇒東方貿易の利害から<sup>11</sup>\_\_\_\_\_占領⇒<sup>12</sup>\_\_\_\_\_帝国を建国(1204)

1228- 第5回十字軍：皇帝<sup>13</sup>\_\_\_\_\_がエジプトと交渉、聖地に無血入城。

1248- 第6回十字軍：仏王<sup>14</sup>\_\_\_\_\_がエジプト侵攻に失敗、捕虜に。

1270- 第7回十字軍：仏王、チュニスで病死。

1250- マムルーク朝エジプト

1291 <sup>15</sup>\_\_\_\_\_を陥落させる。

☆十字軍と平行する動き：西欧世界の拡大(⇒<sup>16</sup>\_\_\_\_\_制の普及による人口増加)

①イベリア半島の国土回復運動(レコンキスタ)。

②ドイツ人の<sup>17</sup>\_\_\_\_\_：<sup>18</sup>\_\_\_\_\_川以東のスラヴ人居住地へ入植。

⇒<sup>19</sup>\_\_\_\_\_辺境伯領・<sup>20</sup>\_\_\_\_\_領が成立(プロイセンの起源)

13c モンゴル軍の侵攻：キエフ公国崩壊、ワールシュタットの戦い(1241)。

14c ポーランドの<sup>21</sup>\_\_\_\_\_大王は、ドイツ騎士団の侵入を防ぐ。

1386- <sup>22</sup>\_\_\_\_\_朝：<sup>23</sup>\_\_\_\_\_大公とポーランド女王が結婚、同君連合。

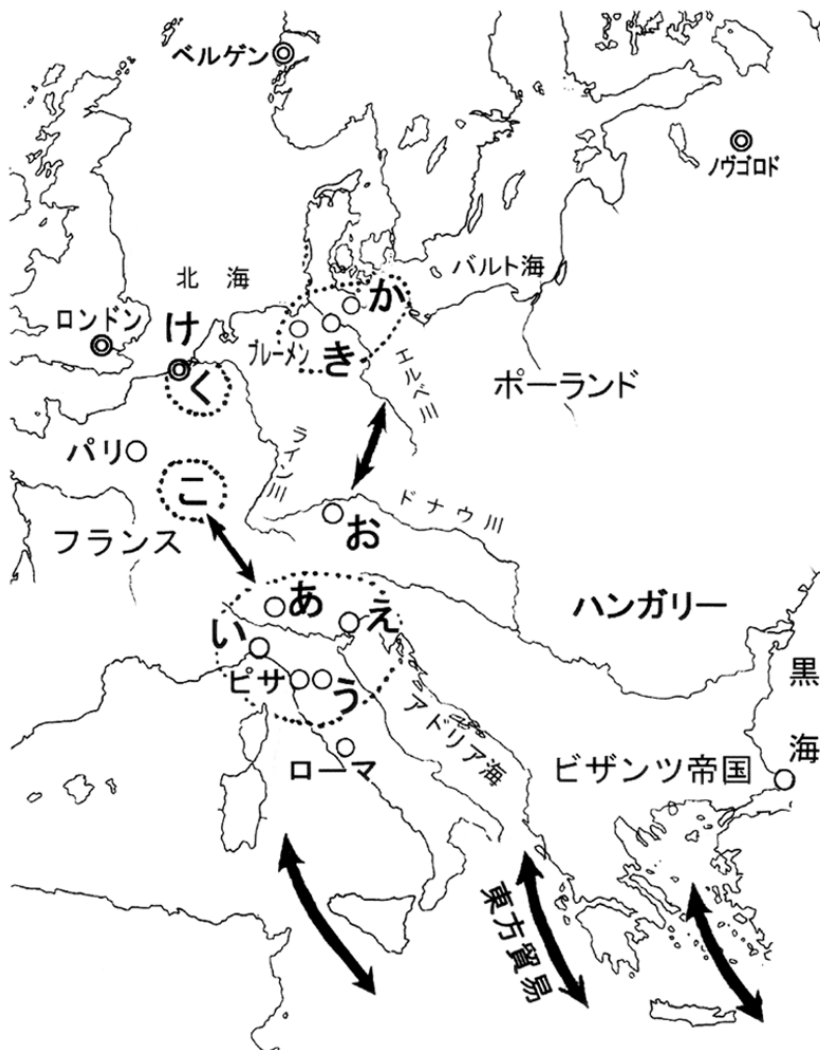
騎士団を破り(1410 タンネンベルクの戦い)、黒海北岸(ウクライナ)まで勢力を拡大。

(解答)1 相互破門 2 セルジューク 3 ウルバヌス2世 4 クレルモン 5 イエルサレム  
6 テンプル・ヨハネ・ドイツ 7 サラディン 8 リチャード1世 9 インノケンティウス3世  
10 ヴェネツィア 11 コンスタンティノーブル 12 ラテン 13 フリードリヒ2世 14 ルイ9世  
15 アッコ 16 三圃 17 東方植民 18 エルベ 19 ブランデンブルク 20 ドイツ騎士団  
21 カジミエシュ 22 ヤゲウォ 23 リトアニア

# 十字軍の時代



## 中世都市



あ \_\_\_\_\_  
 い \_\_\_\_\_  
 う \_\_\_\_\_  
 え \_\_\_\_\_  
 お \_\_\_\_\_  
 か \_\_\_\_\_  
 き \_\_\_\_\_  
 く \_\_\_\_\_ 地方  
 け \_\_\_\_\_  
 こ \_\_\_\_\_ 地方

◎ ハンザ同盟の在外公館

(解答)

|           |           |
|-----------|-----------|
| あ ミラノ     | か リューベック  |
| い ジェノヴァ   | き ハンブルク   |
| う フィレンツェ  | く フランドル   |
| え ヴェネツィア  | け ブリュージュ  |
| お アウクスブルク | こ シャンパーニュ |



## 商業の復活と中世都市

▲ビザンツ金貨ノミスマ  
(レオン3世の肖像)

☆商業の復活：ローマ末期に衰えた貨幣経済が、11～12cに復活。

(要因)①<sup>1</sup> 制の普及<sup>よじょう</sup> ⇨ 余剰物資を交換 ⇨ 定期市、都市が発達。

②<sup>2</sup> の遠征 ⇨ 遠隔地商業（東方貿易・北海貿易）。

北海貿易：毛織物・木材・海産物（ニシン）・穀物など日用品を取引。

・<sup>3</sup> 地方：現ベルギー。毛織物工業。<sup>4</sup> ・ガン・アントワープ。

・<sup>5</sup> 地方：パリの東南。6つの都市が交替で定期市を開催。

◎ドイツの諸都市は皇帝直属の帝国都市として諸侯から自立。自治権を認められる。

・<sup>6</sup> 同盟：北ドイツの都市同盟。100以上の都市が共通の軍事・外交・取引法。

盟主<sup>7</sup> ・エルベ河口の<sup>8</sup> ・ブレーメンなど。

4つの在外商館：ロンドン・ブリュージュ・ベルゲン・ノヴゴロド。

・<sup>9</sup> ：アルプス北側。<sup>10</sup> の産出で、財閥<sup>11</sup> 家が台頭。

<sup>12</sup> 貿易：エジプトから香辛料・絹など高級品を輸入。

◎イタリアの諸都市は自治都市<sup>コムーネ</sup>として独立。周辺領域を支配する都市共和国となる。

・<sup>13</sup> 同盟：北イタリアの都市同盟。皇帝軍を撃退。盟主は<sup>14</sup> 。

・<sup>15</sup> 共和国：第4回十字軍。“東方への窓”。マルコ＝ポーロの出身地。

・<sup>16</sup> 共和国：ヴェネツィアと抗争を続け、敗北。コロンブスの出身地。

・<sup>17</sup> 共和国：トスカナ地方の毛織物都市。金融で<sup>18</sup> 家が台頭。

☆都市の自治：皇帝・国王から特許状を獲得、

封建領主（諸侯・司教）の支配から独立。

⇨都市に逃れた農奴も1年後には自由身分に。

“<sup>19</sup> は自由にする”

◎大商人は組合（商人ギルド）を結成し、

都市参事会（市議会）を独占。

⇨手工業組合（<sup>20</sup> ギルド）が対抗し、

次第に参政権を獲得（<sup>21</sup> 闘争）。

◎手工業者には<sup>22</sup> ・ ・

の3身分があり、親方だけがギルドに参加。

商業の復活と中世都市

1 三圃

2 十字軍

3 フランドル

4 ブリュージュ

5 シャンパーニュ

6 ハンザ

7 リューベック

8 ハンブルク

9 アウクスブルク

10 銀

11 フッガー

12 東方(レヴァント)

13 ロンバルディア

14 ミラノ

15 ヴェネツィア

16 ジェノヴァ

17 フィレンツェ

18 メディチ

19 都市の空気

20 同職

21 ツンフト

22 おやかた 親方・職人・徒弟

(×従弟)

## 封建社会の解体

14～15世紀の危機：開墾の限界、百年戦争、<sup>1</sup> \_\_\_\_\_ 病(1348)の流行、農民逃亡で農村人口が激減、深刻な労働力不足に。

①領主は一時金で農奴解放に応じ、<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ (賦役地)を廃止、農民に分与。

⇒独立自営農民(英では<sup>3</sup> \_\_\_\_\_)から、貨幣地代のみを徴収する純粹莊園。

②領主が農奴制の復活をはかる(封建反動)⇒農民一揆を引き起こす。

**仏**<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ の乱(1358):百年戦争中の臨時課税に反発。ギヨーム=カールが指導。

**英**<sup>5</sup> \_\_\_\_\_ の乱(1381):百年戦争中の人頭税に反発。タイラーが軍事指導者。

精神指導者<sup>6</sup> \_\_\_\_\_ 「アダムが耕しイヴが紡いだ時、<sup>7</sup> \_\_\_\_\_」

☆<sup>8</sup> \_\_\_\_\_ :エルベ川以東の農奴制大農場。

貨幣の流通が遅れた東欧では、  
西欧へ輸出する穀物を栽培する  
ため、領主が直営地を拡大する。



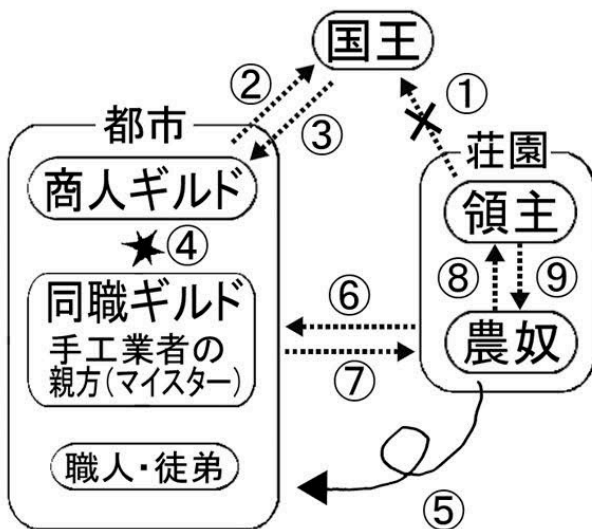
▲ ジャックリーの乱  
(貴族を襲う農民たち)

(解答)1黒死 2賦役 3ヨーマン 4ジャックリー

5ワット=タイラー 6ジョン=ボール

7誰が領主だったか 8グーツヘルシャフト

## 中世都市と農奴解放



① 免税(不輸不入権) ② 税

③ <sup>1</sup> \_\_\_\_\_ を認める特許状

④ 参政権を要求(<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ 闘争)

⑤ 都市へ逃亡、1年と1日後に自由身分に  
(<sup>3</sup> \_\_\_\_\_ は自由にする)

⑥ 余剰農産物 ⑦ 代金(貨幣)

⑧ 生産物地代から<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 地代へ

⑨ <sup>5</sup> \_\_\_\_\_ の廃止(農奴解放)

・**英**独立自営農民(<sup>6</sup> \_\_\_\_\_)が出現。

・領主権の再強化(封建反動)に対して反乱。

・**仏**<sup>7</sup> \_\_\_\_\_ の乱(1358-)

・**英**<sup>8</sup> \_\_\_\_\_ の乱(1381-)

(解答)1自治 2ツンフト 3都市の空気

4貨幣 5賦役(直営地) 6ヨーマン

7ジャックリー 8ワット=タイラー



◀農民を率いるジョン=ボール  
「アダムが耕しイヴが紡いだとき、  
誰が領主だったか？」と訴えた。  
When Adam delved and Eve span,  
Who was then the gentleman?

## 中世のドイツ・イタリア

- 1  : 962 戴冠、初代神聖ローマ皇帝。ドイツ・イタリアを統一。
  - **ハインリヒ 4 世** : 叙任権闘争で教皇と対立。1077 カノッサの屈辱 : 教皇に屈服。
  - 2  : シュタウフェン朝。 3  政策、第 3 回十字軍で事故死。
    - ・ イタリア : 諸侯・都市が皇帝派 (4 ) と教皇派 (5 ) に分裂。
    - ・ ドイツ : 皇帝不在中、諸侯、都市が自立。約 300 の小国家 (6 ) を形成。
  - 7  : シチリア王を兼ね、イスラーム文化に理解。無血の第 5 回十字軍。
- ☆ **シチリア王国** : アラブ人支配 ノルマン人支配 フリードリヒ 2 世もアラブ人官僚を採用。  
 1265- 仏諸侯アンジュー伯(ルイ 9 世の弟)が占領。アラブ人追放、島民には重税を課す。  
 1282 8  : シチリアの大反乱。仏軍を撃退、アラゴン王家を招く。
- ☆ 9  時代(1254-) : シュタウフェン朝断絶後、有力諸侯が帝国の実権を握る。
- 10  : ルクセンブルク家。ベーメン王から皇帝に。プラハ大学を創設。
- 1356 11  を発布 : 皇帝選挙権を 7 人の大諸侯 (12 ) に限る。
- **ジギスムント** : コンスタンツ公会議開催。ニコポリスの戦いでオスマン帝国に敗北。
- 1438- オーストリア大公の 13  家が皇位を独占 ⇨ 婚姻による自領拡大。
- 1291 14  独立戦争 : ウーリなど原初 3 州がハプスブルク家の支配に抵抗開始。  
 ⇨ 15  の伝説 ⇨ バーゼル会議(1499)で 13 州がスイス連邦として独立。  
 ⇨ 三十年戦争後のウェストファリア条約(1648)で国際的に承認。



ハインリヒ 4 世



フリードリヒ 1 世



フリードリヒ 2 世

## 中世のドイツ・イタリア

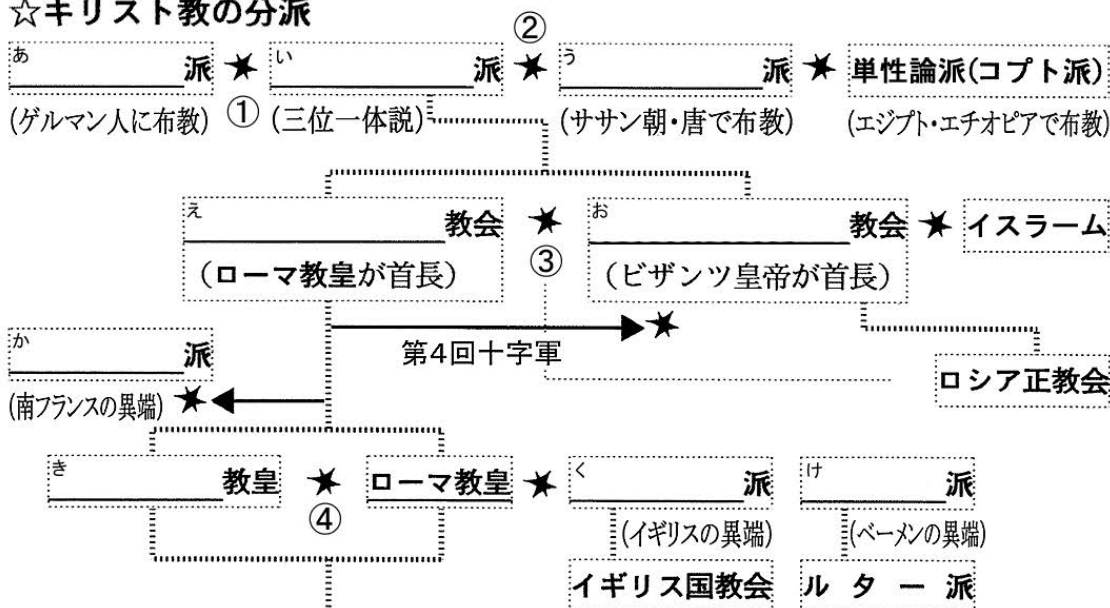
- 1 オットー 1 世
- 2 フリードリヒ 1 世
- 3 イタリア
- 4 ギベリン
- 5 ゲルフ
- 6 領邦
- 7 フリードリヒ 2 世
- 8 シチリアの晩鐘 ばんしょう
- 9 大空位
- 10 カール 4 世
- 11 金印勅書
- 12 選帝侯
- 13 ハプスブルク
- 14 スイス
- 15 ヴィルヘルム=テル



## 教皇権の衰退

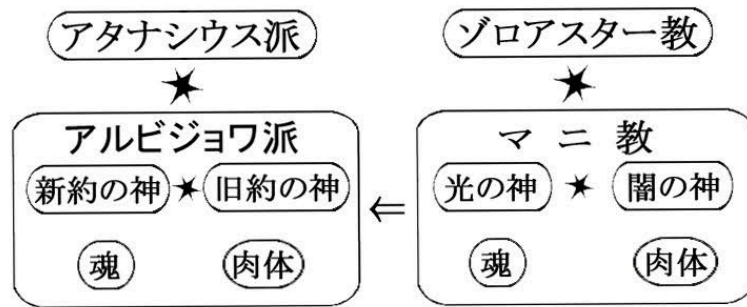
- ・ ①  : 仏王。→ 聖職者課税問題で対立 ← ②
  - 1302 ③  招集 : 仏の身分制議会。聖職者・貴族・市民代表が国王を支持。
  - ⇒ ④  事件(1303) : 仏王が教皇を襲撃、憤死させる。教皇権失墜の始まり。
  - 1309- “⑤  ” : 仏王が教皇庁を南仏の⑥  へ移転。
  - 1378- ⑦  (教会大分裂) : 独帝・英王がローマに別の教皇を擁立。
  - ☆中世の異端 : カトリックの改革運動。教皇の首位権そのものを否定 (⇒ 宗教改革)
  - ① ⑧  派(11c-) : ペルシアの⑨  教の影響。極端な禁欲と独自の教会組織。
  - ⇒ 南仏の一派が⑩  派。仏王フィリップ2世、⑪  が討伐。
  - ② ⑫  (14c) : 英のオクスフォード大学神学教授。英国教会の独立を主張。
  - ⇒ 同派の説教僧⑬  は、ワット=タイラーの乱に影響を与える。
  - ③ ⑭  (14c) : ベーメンのプラハ大学神学教授。ベーメン民族運動の指導者に。
  - 1414-18 ⑮  公会議 : 大シスマを統一。ウィクリフとフスを異端とする。
  - ⇒ フスを火刑 ⇒ ⑯  戦争(1419-36) : ベーメンの大反乱。皇帝軍を撃退。
  - ☆ ⑰  修道会(13c) : 教会内部の改革運動。教皇権は認めるが、教会財産を否定。
  - ・ 伊の⑱  修道会 : “アッシジの聖者”。モンゴル帝国へ宣教師を派遣。
  - ・ 南仏の⑲  修道会 : 南仏でカタリ派撲滅の宗教裁判(異端審問)を行う。
- (解答) 1 フィリップ4世 2 ボニファティウス8世 3 三部会 4 アナーニ 5 教皇のバビロン捕囚  
6 アヴィニョン 7 大シスマ 8 カタリ 9 マニ 10 アルビジョワ 11 ルイ9世 12 ウィクリフ  
13 ジョンボール 14 フス 15 コンスタンツ 16 托鉢 17 フランチェスコ 18 ドミニコ

## ☆キリスト教の分派



- (解答) あ アリウス い アタナシウス う ネストリウス え ローマ=カトリック お ギリシア正  
 か アルビジョワ き アヴィニョン く ウィクリフ け フス  
 ① ニケーア公会議 ② エフェソス公会議 ③ 東西教会の分裂 ④ 大シスマ

## 中世の異端



**ウィクリフ**

- ・オックスフォード大教授。
- ・教皇権を否定。
- ・『新約聖書』を英語訳。
- ・ランカスター公に保護される。

⇒

**フス**

- ・ベーメンのプラハ大教授。
- ・教皇権を否定。
- ・『新約聖書』をチェコ語訳。
- ・皇帝ジギスメントに召喚され。コンスタンツ公会議で火刑に。



▲ アルビジョワ派の城塞



▲ フスの火刑

## 修道会

Ordo オルド… 請願をたて、共同生活を営む聖職者の組織。

|              |         |                                                                                                                      |
|--------------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①            | _____ 会 | 6世紀イタリア。ローマ近郊の <b>モンテ=カシノ山</b> に創建。<br>「 <b>祈り、働け</b> 」の会則はすべての修道会運動に影響。<br>⇒寄進により富裕化、世俗化が進む。                        |
| ②            | _____ 会 | 10世紀東仏。教会刷新運動の中心。<br><b>グレゴリウス改革</b> 、 <b>叙任権闘争</b> に影響。                                                             |
| ③            | _____ 会 | 11世紀東仏。粗衣粗食、 <b>大開墾運動</b> の中心となる。<br>⇒第2回十字軍、 <b>テンプル騎士団</b> の結成に影響。                                                 |
| <b>托鉢修道会</b> |         | <b>教会財産を否定</b> し、信者からの寄進で生活する。                                                                                       |
| ④            | _____ 会 | 13世紀イタリア。 <b>アッシジの聖者</b> 。托鉢修道会の最初。<br><b>カルピニ</b> 、 <b>ルブルック</b> 、 <b>モンテ=コルヴィノ</b> はモンゴルへ。<br>新大陸(カリフォルニア)、日本でも布教。 |
| ⑤            | _____ 会 | 13世紀南仏。 <b>アルビジョワ派の改宗</b> 、異端審問に熱心。<br><b>トマス=アキナス</b> は『神学大全』でカトリック神学を完成。                                           |
| ⑥            | _____ 会 | 16世紀スペイン。 <b>イグラティウス=ロヨラ</b> が宗教改革に対抗。<br><b>ザビエル</b> は日本で、 <b>マテオ=リッチ</b> は明で布教。                                    |



ベネディクトゥス

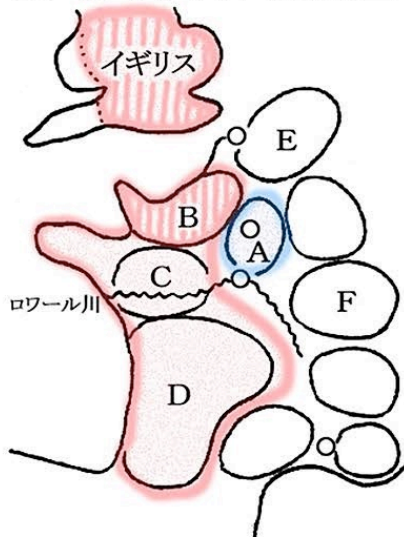


フランチェスコ

(解答) ① ベネディクト ② クリュニー ③ シトー ④ フランチェスコ ⑤ ドミニコ ⑥ イエズス



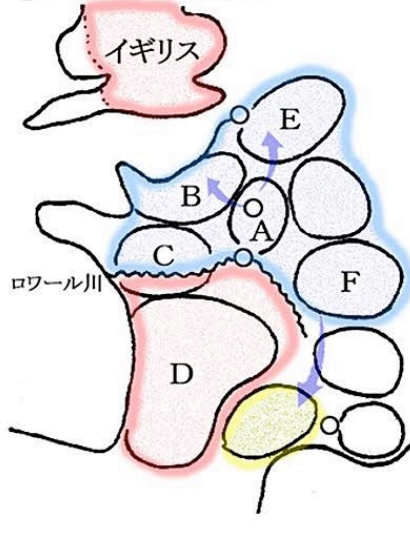
### ①プランタジネット朝の成立



- カペー朝
- ノルマン朝
- プランタジネット朝

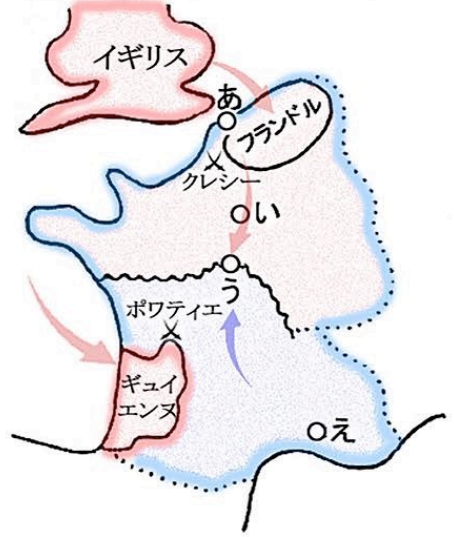
A パリ伯 B ノルマンディー公  
C アンジュー伯 D アキテーヌ公  
E フランドル伯 F ブルゴーニュ公

### ②カペー朝の反撃



- カペー朝  
(フィリップ2世)
- プランタジネット朝  
(ジョン)
- アルビジョワ派

### ③百年戦争(1339~1453)

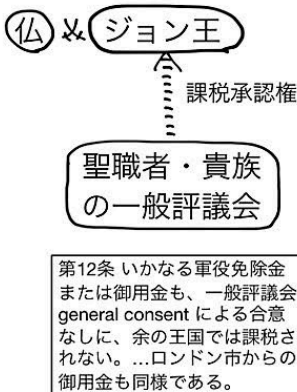


- 英軍占領地
- ヴァロワ朝
- ジャンヌ=ダルク

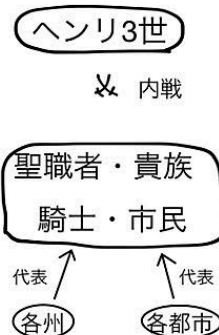
あ カレー い パリ  
う オルレアン え アヴィニョン

## イギリス議会の成立

#### ① マグナ=カルタ(1215)



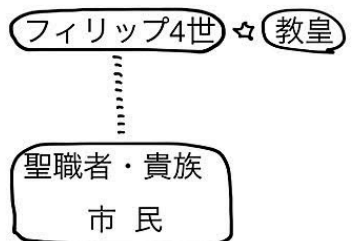
#### ② シモンの議会(1265)



#### ③ 模範議会(1295)



#### フランス三部会(1302)



### 中世の英仏関係

- 1 ノルマン
- 2 ウィリアム1世
- 3 プランタジネット
- 4 ヘンリ2世
- 5 リチャード1世
- 6 ジョン
- 7 マグナ=カルタ
- 8 ヘンリ3世

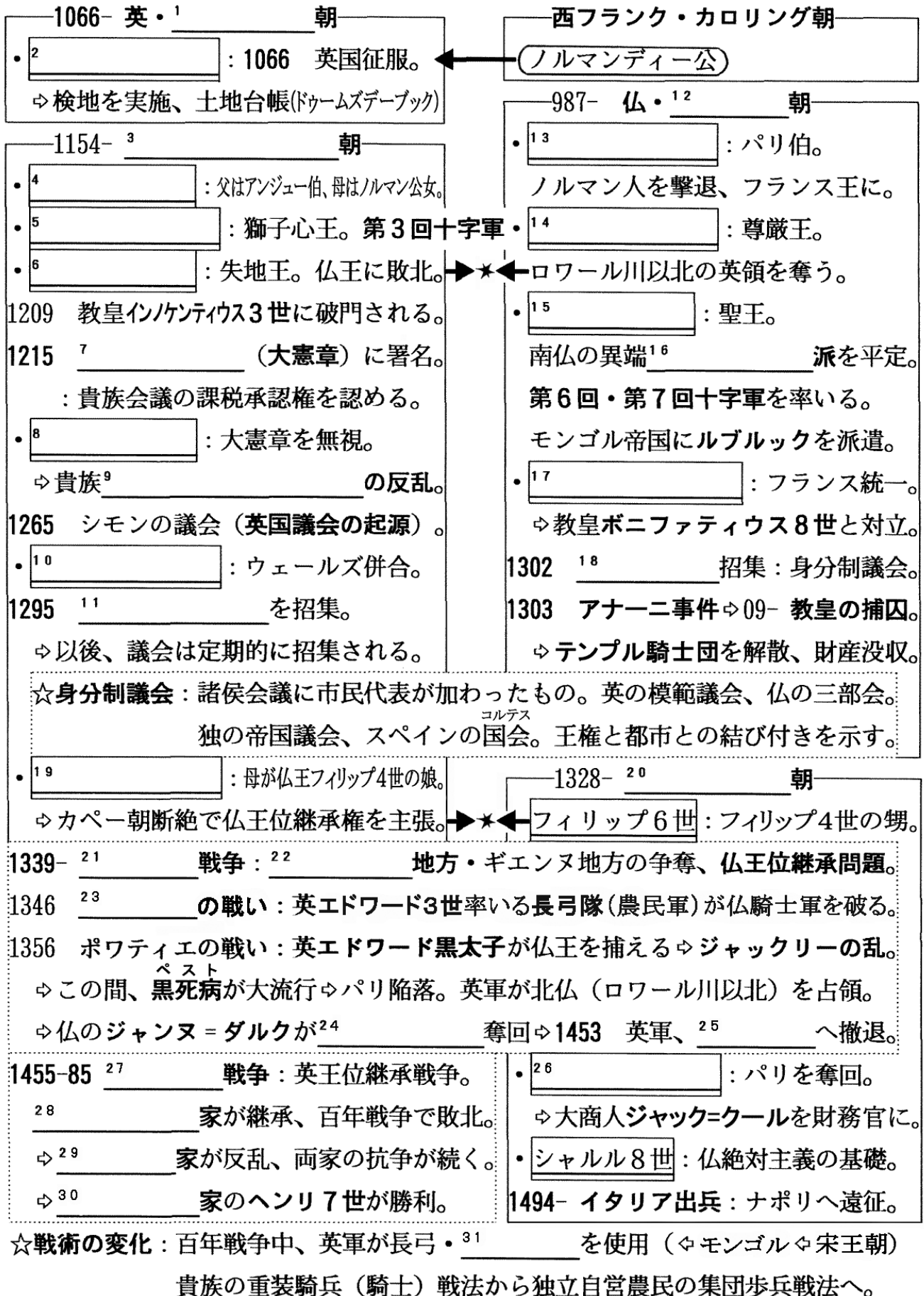
- 9 シモン=ド=モンフォール
- 10 エドワード1世
- 11 模範議会
- 12 カペー
- 13 ユーグ=カペー
- 14 フィリップ2世
- 15 ルイ9世
- 16 アルビジョワ

- 17 フィリップ4世
- 18 三部会
- 19 エドワード3世
- 20 ヴァロワ
- 21 百年
- 22 フランドル
- 23 クレシー
- 24 オルレアン

- 25 カレー
- 26 シャルル7世
- 27 バラ
- 28 ランカスター
- 29 ヨーク
- 30 テューダー
- 31 火砲(大砲)

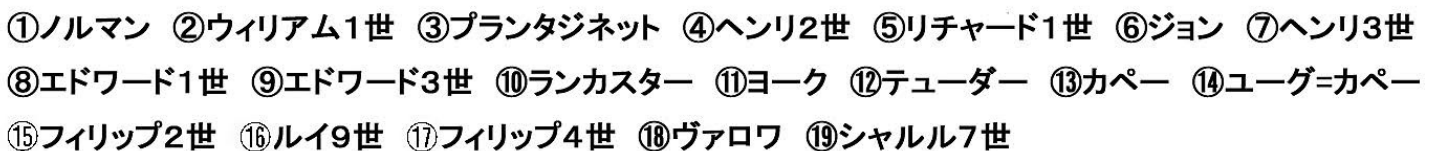


## 中世の英仏関係



[フランス]

[イギリス]



# (デンマーク) 中世の北欧 (スウェーデン)

- 1 : 1016 英王に即位。  
英・デンマーク・ノルウェー統一、北海帝国。

12c-ハンザ同盟と抗争、敗北(1370)。

- 2 : 女王(1387-)   
ノルウェー王と結婚、同君連合。

1397<sup>3</sup>                      同盟結成

⇒ デンマーク連合王国(-1523)

16c ルター派に改宗。

- クリスティアン4世

900頃 カトリック改宗。

13c フィンランドを併合。

14c 王と貴族が内紛。

⇒ 貴族はデンマークに支援を求める。

⇒ <sup>3</sup>                      同盟に加盟。

1520- 対デンマーク独立戦争。

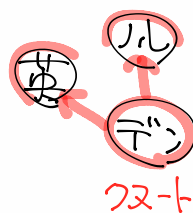
- グスタフ1世 : 独立(1523)。ルター派改宗。

- 4 (1611-) 全盛期。

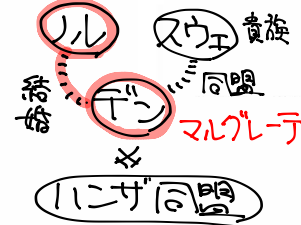
1618- 三十年戦争に新教徒側で参戦。



11c 北海帝国



14c カルマル同盟



(解答)

- 1 クヌート
- 2 マルグレーテ
- 3 カルマル
- 4 グスタフ=アドルフ

## レコンキスタ(国土回復運動)



①                      のイベリア遠征(778-)

• スペイン辺境領を設置。

• 叙事詩『                    』の舞台。

② カステリヤが                      攻略(1085)。

• アラビア語文献を                      語に翻訳。

⇒ 十二世紀ルネサンスに影響。

③                      人が侵攻 (1086-)

• ムラービト朝、ムワッヒド朝。

• コルドバの大学者                     。

⇒ ムワッヒド朝撤退、小国分立(13c初)。

④ C・A同君連合、                     王国。

{ • カステリヤ女王                     

• アラゴン王                     

⇒ <sup>10</sup>                      攻略(1492)。 <sup>11</sup>                      朝滅亡。



A. アラゴン王国 C. カステリヤ王国 P. ポルトガル王国

(解答) 1 カール大帝 2 ローランの歌 3 トレド 4 ラテン 5 ベルベル 6 イブン=ルシュド  
7 スペイン 8 イサベル 9 フェルナンド5世 10 グラナダ 11 ナスル



## ロシア帝国の成立

東ローマ帝国

正教 → 9c- 1 \_\_\_\_\_ 公国：ノルマン人が建国。  
 2 \_\_\_\_\_ : ビザンツ皇女と結婚、正教改宗。  
 1240 モンゴルの侵攻：キエフ公国滅亡。  
 ⇒ 以後 240年間、 3 \_\_\_\_\_ = ハン国の支配。  
 “タタールのくびき”

帝位 → 1328- 4 \_\_\_\_\_ 大公国（リュールク朝）  
 5 \_\_\_\_\_ : 東ローマの皇女と結婚(1472)。  
 ⇒ 双頭の鷲の紋章、皇帝（6 \_\_\_\_\_）の称号。  
 1480 ハンへの貢納拒否 ⇒ ウグラ川の戦いで独立。  
 7 \_\_\_\_\_ : (1533-) “雷帝”<sup>らいてい</sup>。貴族を打倒。  
 1547- 全ロシアの皇帝<sup>ツァーリ</sup>と称す。農奴の移動を禁止。  
 1582 イェルマークの遠征：シベリア征服はじまる。

1453 滅亡



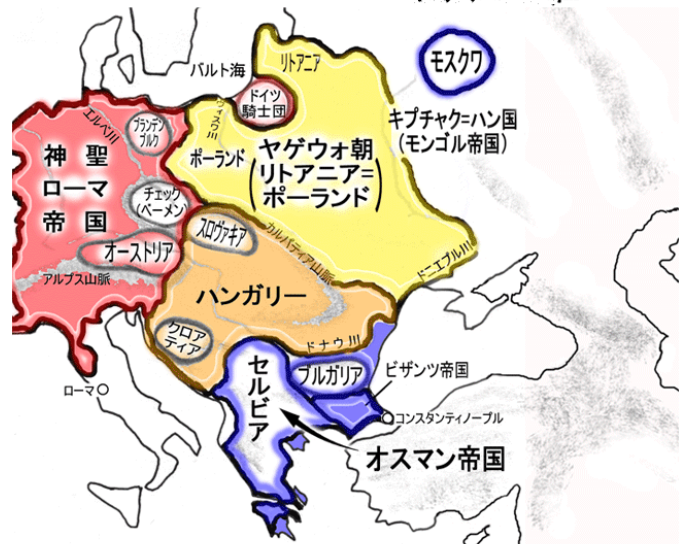
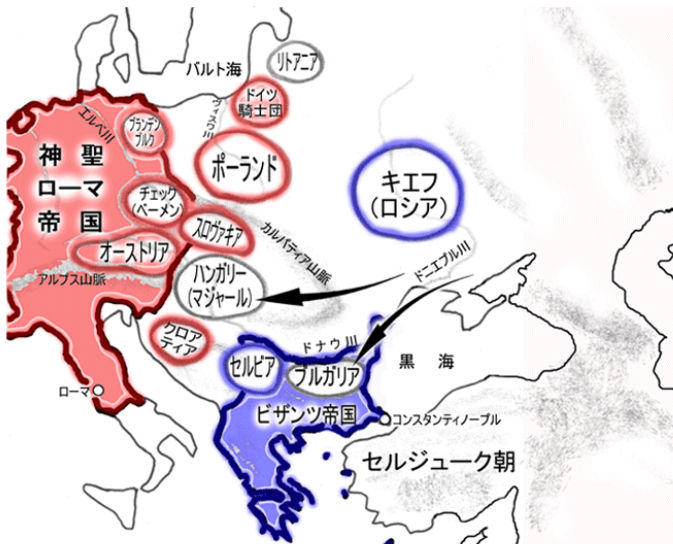
▲「双頭の鷲」の紋章

Давлат тил  
кунлар ва ҳ  
ларни эслай

▲ キリル文字



イヴァン4世



### 中世の東欧

- 1 マジャール
- 2 オットー1世
- 3 モラヴィア
- 4 キュリロス
- 5 神聖ローマ
- 6 カール4世
- 7 フス

### 8 コンスタンツ

- 9 ワールシュタット
- 10 カジミエシュ(3世)
- 11 ヤゲウオ
- 12 リトアニア
- 13 タンネンベルク
- 14 ブルガリア
- 15 ブルガール

### 16 セルビア

- 17 コソヴォ
- 18 レオン3世
- 19 アレクシオス1世
- 20 プロノイア
- 21 4

### ロシア帝国の成立

- 1 キエフ
- 2 ウラディミル1世
- 3 キプチャク
- 4 モスクワ
- 5 イヴァン3世
- 6 ツァーリ
- 7 イヴァン4世

## 中世の東欧

☆<sup>1</sup> \_\_\_\_\_ 人：アジア系（ウラル系）遊牧民。9c- 黒海北岸からヨーロッパ侵攻。

955 レヒフェルトの戦い：ドイツ王<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ に敗北⇨パンノニア平原に定住。

・ イシュトヴァーン1世：カトリック改宗。1000 教皇から王冠授与。初代ハンガリー王に。

⇨スロヴァキア・クロアチア・トランシルヴァニア（ルーマニア北部）を征服。

☆スラヴ民族：東欧の先住民。印欧系。マジャール人に追われ、各地に移住、建国。

7c- <sup>3</sup> \_\_\_\_\_ 王国：最古のスラヴ人国家。 <sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 兄弟が正教を布教。

10c- ベーメン（チェック）王国

- ・ ヴァーツラフ1世：10c カトリック改宗。
- ⇨ <sup>5</sup> \_\_\_\_\_ 帝国の一諸侯に。
- 11c- ドイツ人の東方植民。ドイツ化。
- ⇨ズデーテン地方の鉱山開発。
- ・ カレル1世：皇帝<sup>6</sup> \_\_\_\_\_。
- 1356 金印勅書発布⇨七人の選帝侯。
- 1415 プラハ大学教授<sup>7</sup> \_\_\_\_\_、  
<sup>8</sup> \_\_\_\_\_ 公会議で火刑に。
- ⇨<sup>7</sup> \_\_\_\_\_ 戦争：民族独立運動に。
- 16c- 喫ハプスブルク家が継承。

10c- ポーランド王国（ピャスト朝）

- ・ マジャール人に対抗、カトリック改宗。
- 1241 <sup>9</sup> \_\_\_\_\_ の戦い：モンゴルに大敗。
- 11c- 東方植民。13c- ドイツ騎士団の侵略。
- ・ <sup>10</sup> \_\_\_\_\_ 大王（14c）：騎士団に対抗。
- 1386- <sup>11</sup> \_\_\_\_\_ 朝（首都：クラクフ）
- ・ ヤドヴィガ女王：<sup>12</sup> \_\_\_\_\_ 大公と結婚。  
（<sup>12</sup> \_\_\_\_\_ ・ポーランド同君連合）
- 1410 <sup>13</sup> \_\_\_\_\_ の戦い：騎士団を撃破。
- ⇨黒海北岸まで征服。ポーランド最大領土。
- 1572- 選挙王制：大貴族と国王が抗争。

### ☆バルカン半島の国々

7c- <sup>14</sup> \_\_\_\_\_ 王国

：アジア系<sup>15</sup> \_\_\_\_\_ 人。  
スラヴと混血。正教改宗。

11c 東ローマに併合。←

12c 十字軍侵入を機に独立。

11c <sup>16</sup> \_\_\_\_\_ 王国

：南スラヴ族。正教に改宗。

・ ステファン=ドゥシャン：全盛期。

1330 ブルガリアを破り、  
バルカン半島を制圧。

1389 <sup>17</sup> \_\_\_\_\_ の戦い ←

：オスマンに滅ぼされる。

東ローマ（ビザンツ）帝国

- ・ ヘラクレイオス1世：<sup>テマ</sup>軍管区制、屯田兵制。
- ・ <sup>18</sup> \_\_\_\_\_：聖像禁止令（726）
- ・ バシレイオス2世：11c ブルガリアを征服。
- 1054 東西教会の相互破門。
- 1071 マンジケルトの戦い：セルジューク朝に敗北。
- ・ <sup>19</sup> \_\_\_\_\_：教皇に十字軍を要請。
- ☆<sup>20</sup> \_\_\_\_\_ 制：貴族に国地分与、軍役。
- 1204 第<sup>21</sup> \_\_\_\_\_ 回十字軍、コンスタンティノープル占領。
- 14c- オスマン帝国が侵攻。
- 1362 アドリアノープル陥落。
- 1453 コンスタンティノープル陥落。……

（ロシア）

キエフ  
公 国

正教 →

モスクワ  
大公国

帝位 →

オスマン  
帝 国